

令和8年春の全国交通安全運動の実施について

1 実施期間

4月6日(月)から同月15日(水)までの10日間
(交通事故死ゼロを目指す日 4月10日)

2 主催

内閣府・警察庁等10府省庁、都道府県、市区町村及び関係13団体

3 運動重点

- (1) 通学路・生活道路におけるこどもを始めとする歩行者の安全確保
- (2) 「ながらスマホ」の根絶や歩行者優先等の安全運転意識の向上
- (3) 自転車・特定小型原動機付自転車の交通ルールを理解・遵守の徹底

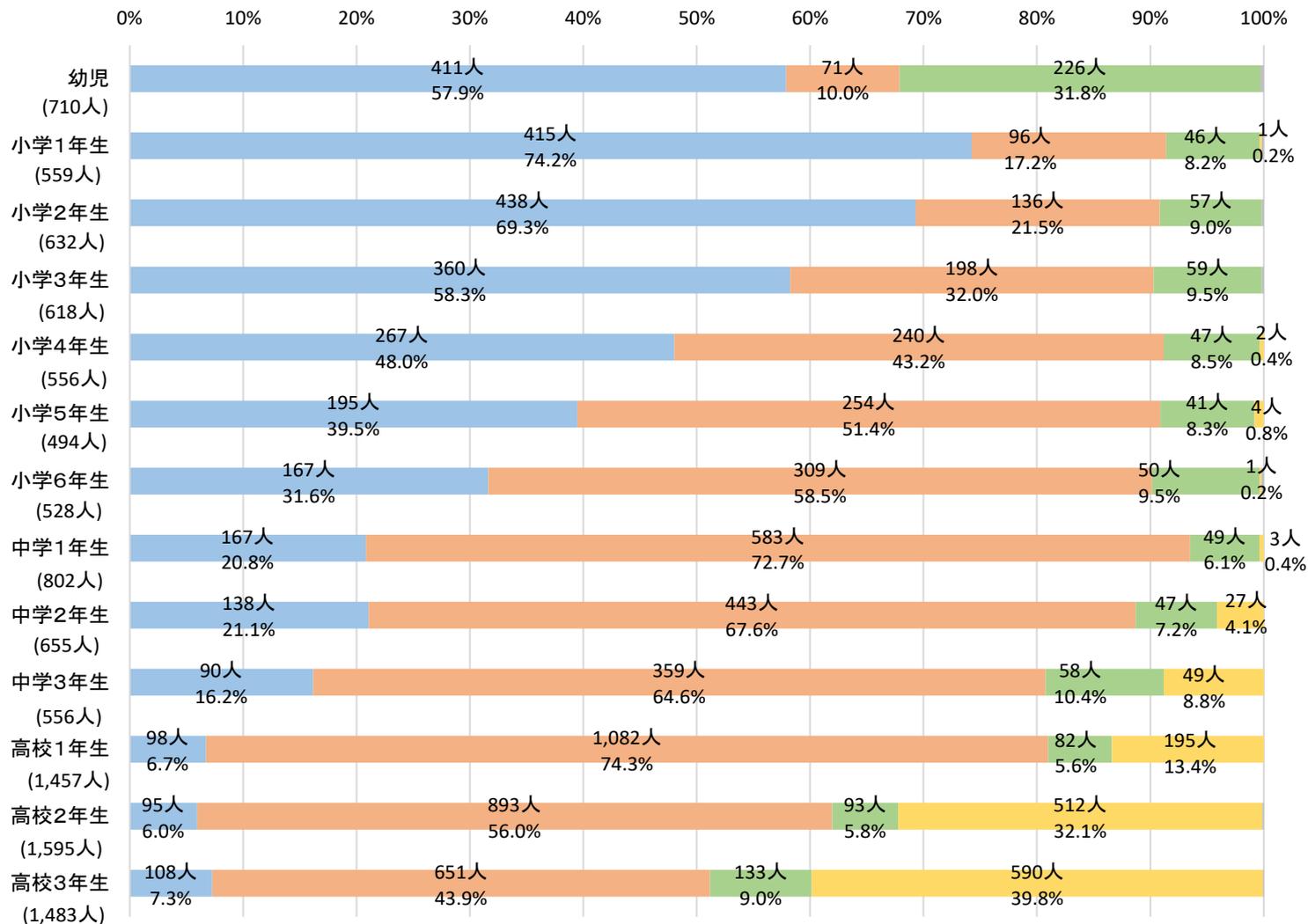
4 運動重点に関連する交通事故の特徴等

- (1) 運動重点(1)関係（こどもに関連する交通事故の特徴）
 - 小学生は低学年ほど歩行中の事故、高学年になるほど自転車乗用中の事故の割合が高い。
 - 中学生・高校生は自転車乗用中の事故の割合が最も高く、学年が上がるにつれて二輪車乗用中の割合が高い。
 - 高校生から死者・重傷者が大きく増加し、特に自転車乗用中が増加
 - 月別では、幼児では大きな差は見られないが、児童では4月から6月にかけて増加
 - 通行目的別では、幼児は「遊戯」、児童は「下校」が最多
 - 法令違反等別では、幼児・児童とも「飛出し」が多い。
- (2) 運動重点(2)関係（自動車に関連する交通事故の特徴）
 - 携帯電話等使用による死亡・重傷事故は近年増加傾向
 - 携帯電話等使用時の死亡事故率は不使用時の約3.4倍
 - チャイルドシート使用率は年齢とともに低下
 - チャイルドシート不使用時の致死率は使用時の約3.7倍
 - シートベルト非着用時の致死率は着用時の約14.8倍
- (3) 運動重点(3)関係（自転車に関連する交通事故の特徴）
 - 通行目的別では、小学生では「訪問」が最多、中学生・高校生では「登校」が最多
 - ヘルメット着用率は、小学生は全学年で約3割、中学生は1年生が最も高く約5割で、学年が上がるにつれ低くなり、高校生は全学年で低い。
 - 自転車乗用中死者数は減少傾向にあるが、法令違反ありの構成率は約8割前後で高止まり。

○ 幼児・児童・生徒に関連する交通事故の状況

- 小学生は低学年ほど歩行中の事故、高学年になるほど自転車乗用中の事故の割合が高くなっている。
- 中学生・高校生は自転車乗用中の割合が最も高く、学年が上がるにつれて二輪車乗車中の割合が高くなっている。
- 高校生から死者・重傷者が大きく増加し、特に自転車乗用中が増加

幼児・児童・生徒の状態別死者・重傷者数【令和3年～7年合計】



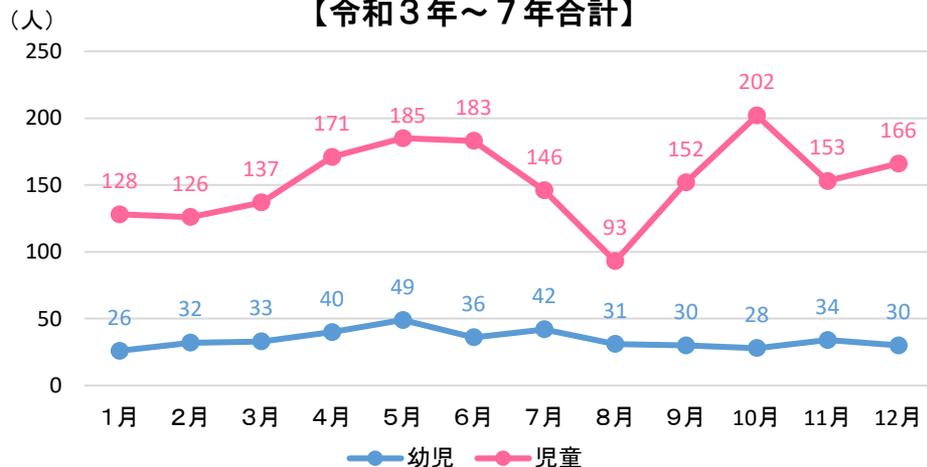
(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。
「生徒」とは、中学生及び高校生をいう。

■ 歩行中 ■ 自転車乗用中 ■ 自動車乗車中 ■ 二輪車乗車中 ■ その他

○ 幼児・児童の歩行中の事故

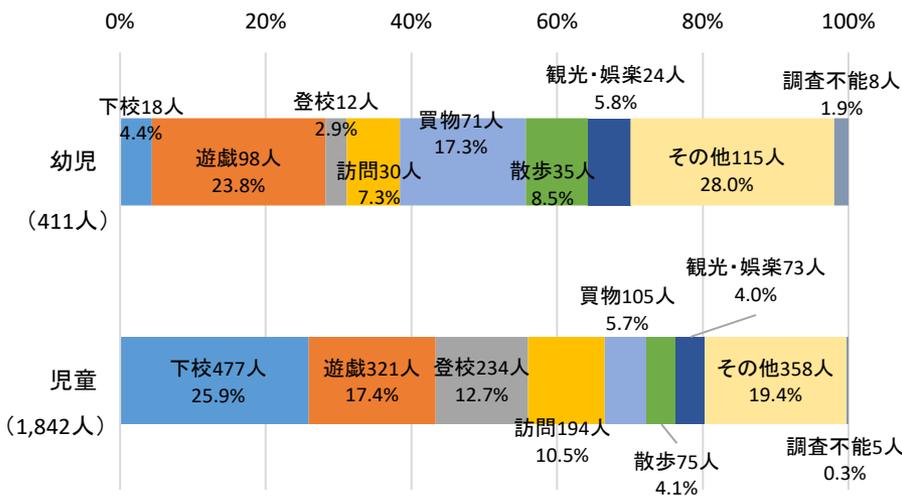
- 月別では、幼児では大きな差は見られないが、児童では4月から6月にかけて増加する。
- 通行目的別では、幼児は「遊戯」、児童は「下校」がそれぞれ最多
- 法令違反等別では児童・幼児とも「飛出し」が多い

歩行中幼児・児童の月別死者・重傷者数 【令和3年～7年合計】



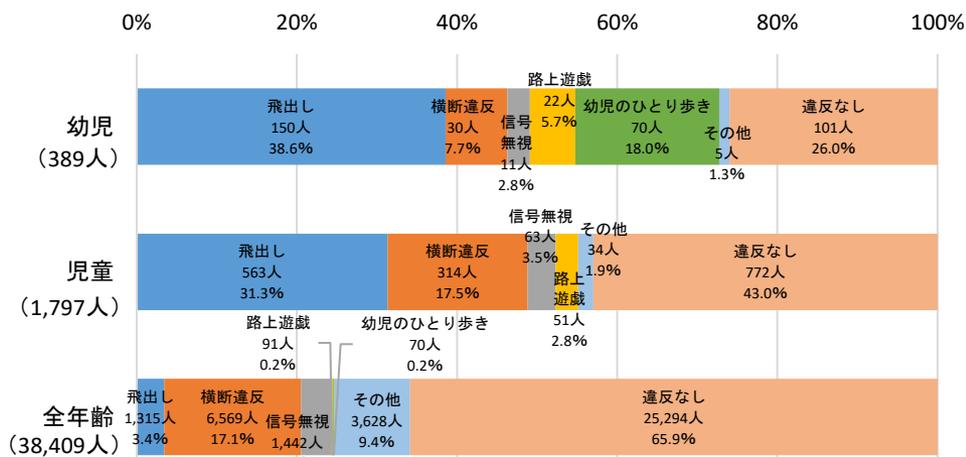
(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

歩行中幼児・児童の通行目的別死者・重傷者数 【令和3年～7年合計】



(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

歩行中幼児・児童（第1・第2当事者）の法令違反等別死者・重傷者数【令和3年～7年合計】

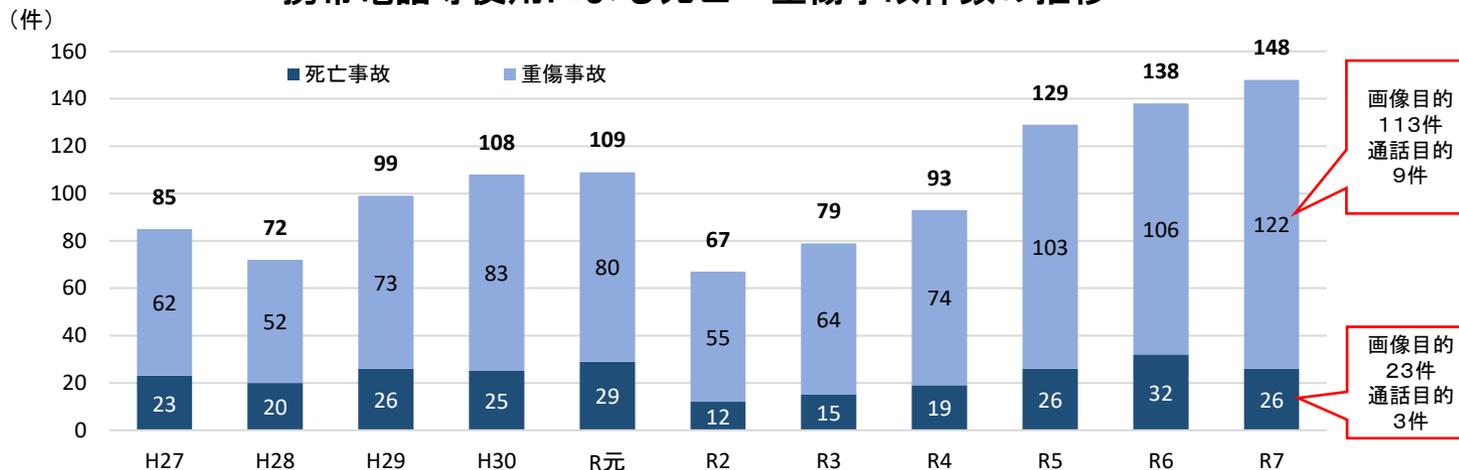


(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

○ 自動車～携帯電話等使用

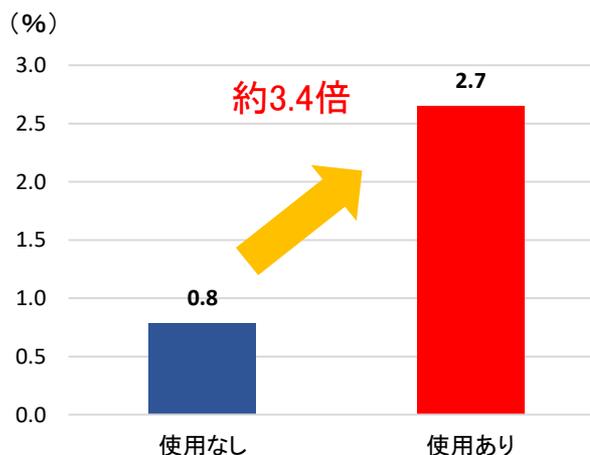
- 携帯電話等使用による死亡・重傷事故は近年増加傾向
- 携帯電話等使用時の死亡事故率は不使用时の約3.4倍

携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数の推移



(注) ・ 第1当事者が一般原付以上の件数。
・ 携帯電話、スマートフォンの使用が要因となって発生した事故を集計。

携帯電話等使用有無別死亡事故率の比較【令和3年～7年合計】

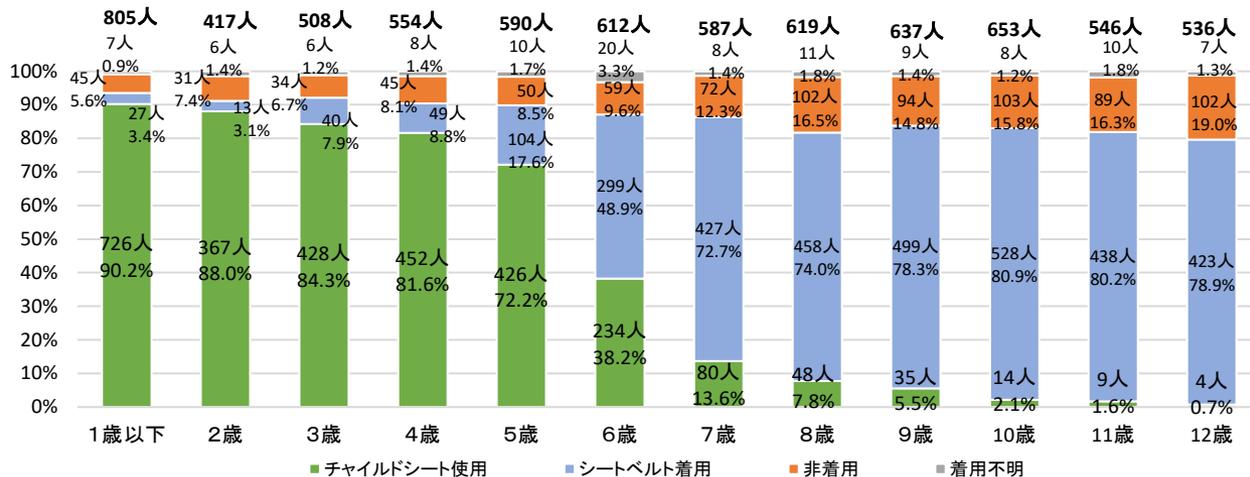


(注) ・ 第1当事者が一般原付以上を集計。
・ 「死亡事故率」とは、第1当事者が一般原付以上の交通事故件数に占める死亡事故件数の割合をいう。

○ チャイルドシート・シートベルト

- チャイルドシート使用率は年齢とともに低下
- チャイルドシート不使用時の致死率は使用時の約3.7倍
- シートベルト非着用時の致死率は着用時の約14.8倍

自動車同乗中幼児・児童のチャイルドシート使用状況別死傷者数【令和7年】



(注) 「幼児」とは6歳未満の者、「児童」とは6歳以上12歳以下の者をいう。以下同じ。

自動車同乗中幼児のチャイルドシート使用有無別致死率比較【令和3年～7年合計】



(注) ・「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。以下同じ。
 ・「不使用」とは、シートベルトを使用していた者及びチャイルドシート・シートベルトいずれも使用・着用していなかった者をいう。

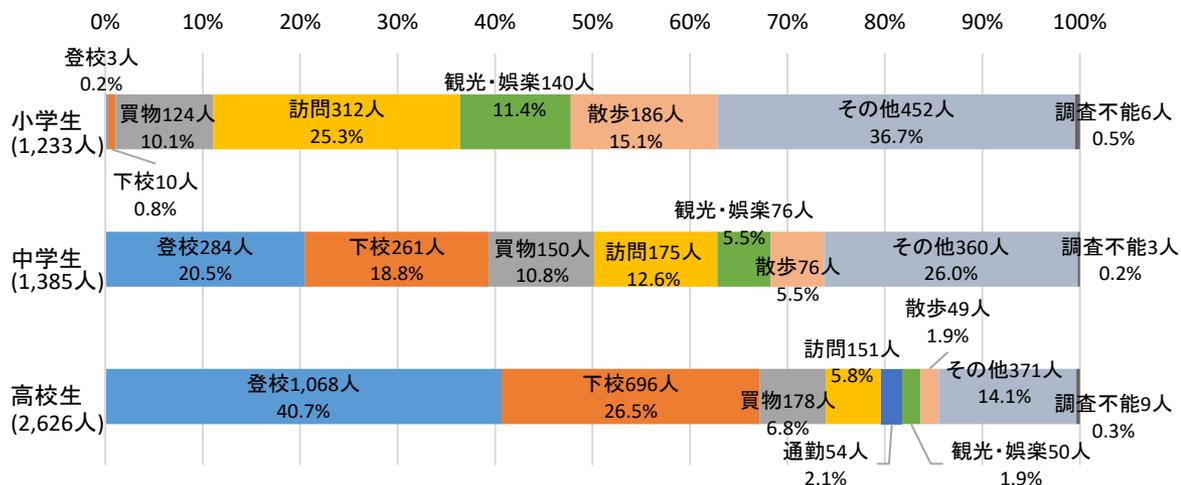
〈参考〉自動車乗車中のシートベルト着用有無別致死率比較【令和3年～7年合計】



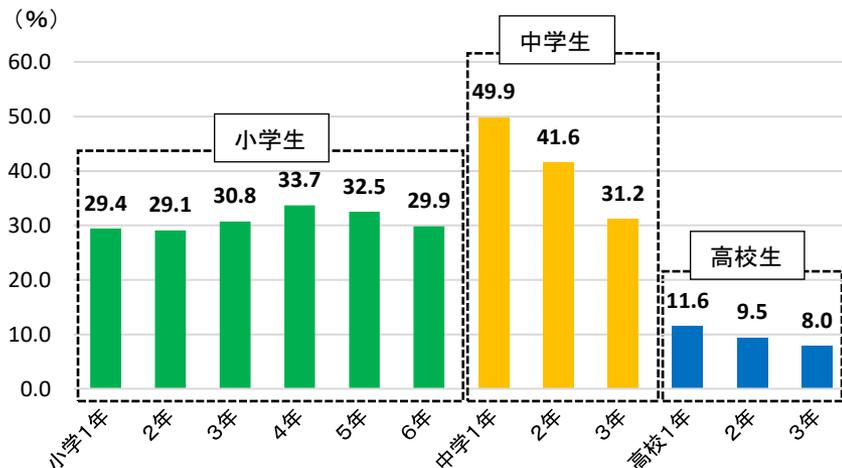
○ 児童・生徒の自転車事故

- 通行目的別では、小学生では「訪問」が最多、中学生・高校生では「登校」が最多
- ヘルメット着用率は、小学生は全学年で約3割、中学生は1年生が最も高く約5割で、学年が上がるにつれ低くなり、高校生は全学年で低くなっている。
- 自転車乗用中死者数は減少傾向にあるが、法令違反ありの構成率は約7割から8割で高止まり

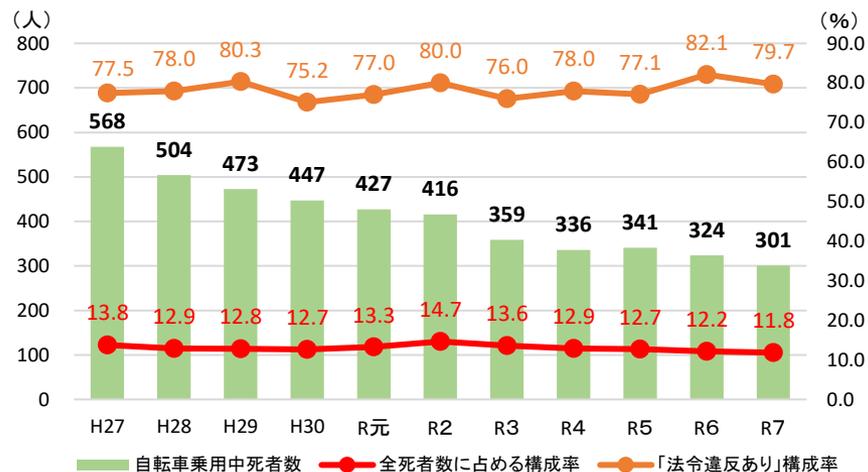
児童・生徒の通行目的別自転車乗用中死者・重傷者数【令和3年～7年合計】



児童・生徒の学齢別ヘルメット着用率【令和3年～7年合計】



〈参考〉自転車乗用中死者数（第1・第2当事者）の推移



(注) ・「ヘルメット着用率」とは、全死傷者のうち、ヘルメットを着用していた者の割合。